

壺乃碑考

完

第三号 執

子伊 10
2.428



門子伊10
第2428
卷

許官

多氣志樓主人著

壘廼碑考完

東京 玉巖堂梓

明治四十年一月廿八日
中村健 氏寄贈



佳苦破章閣字集夕
陽以馬獨依洵無人
影沈惠即穉一以殘
研寒有苦

已巳仲冬余齋巨掃自於本館達羅多賀城
遺塔 啓津宣光 謹

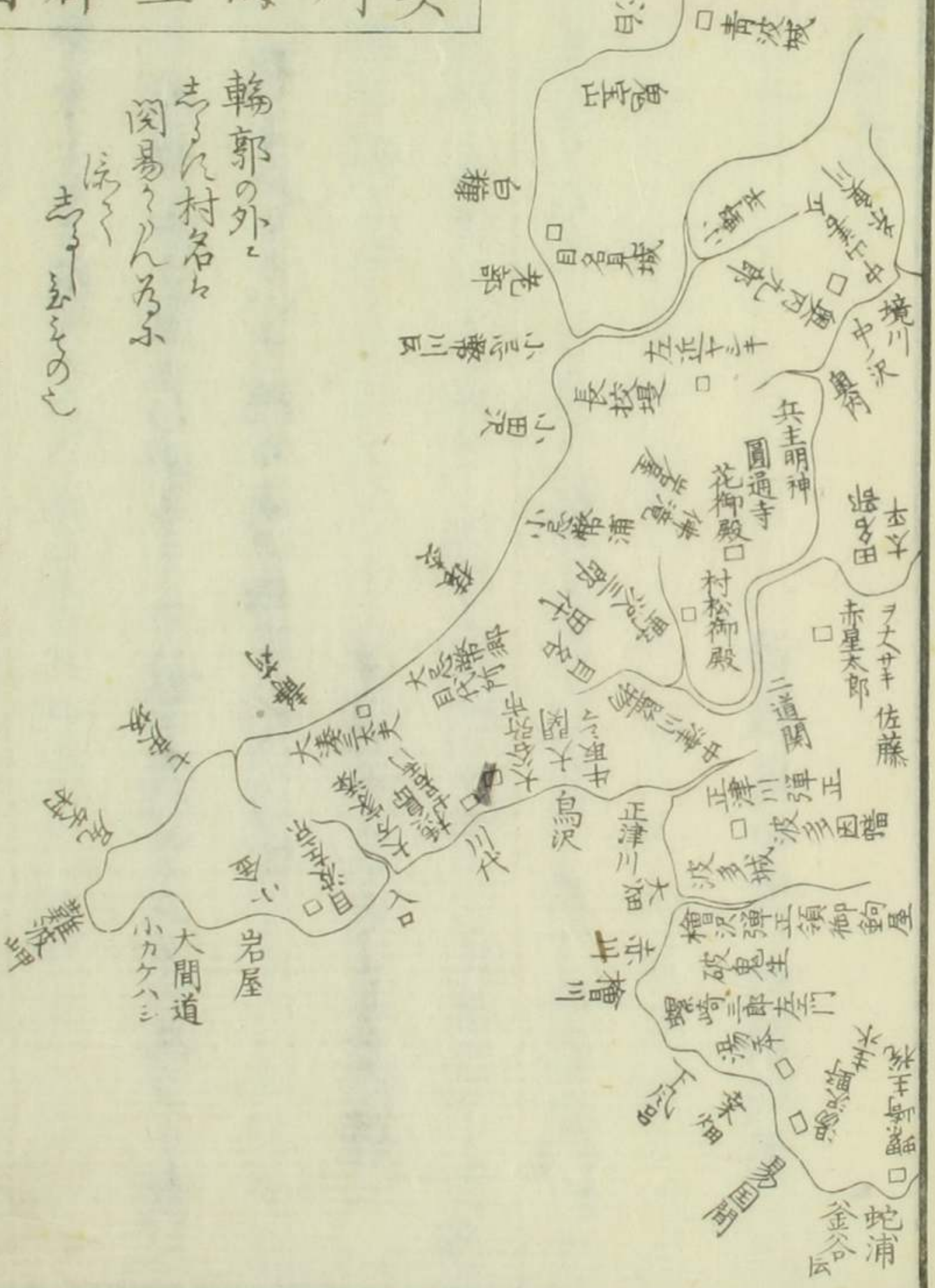
壘碑考

多氣志樓

奥州上海郡圖

康正三丁巳年秋八月二十九日北郡敗臣中津川七郎右三門圖之

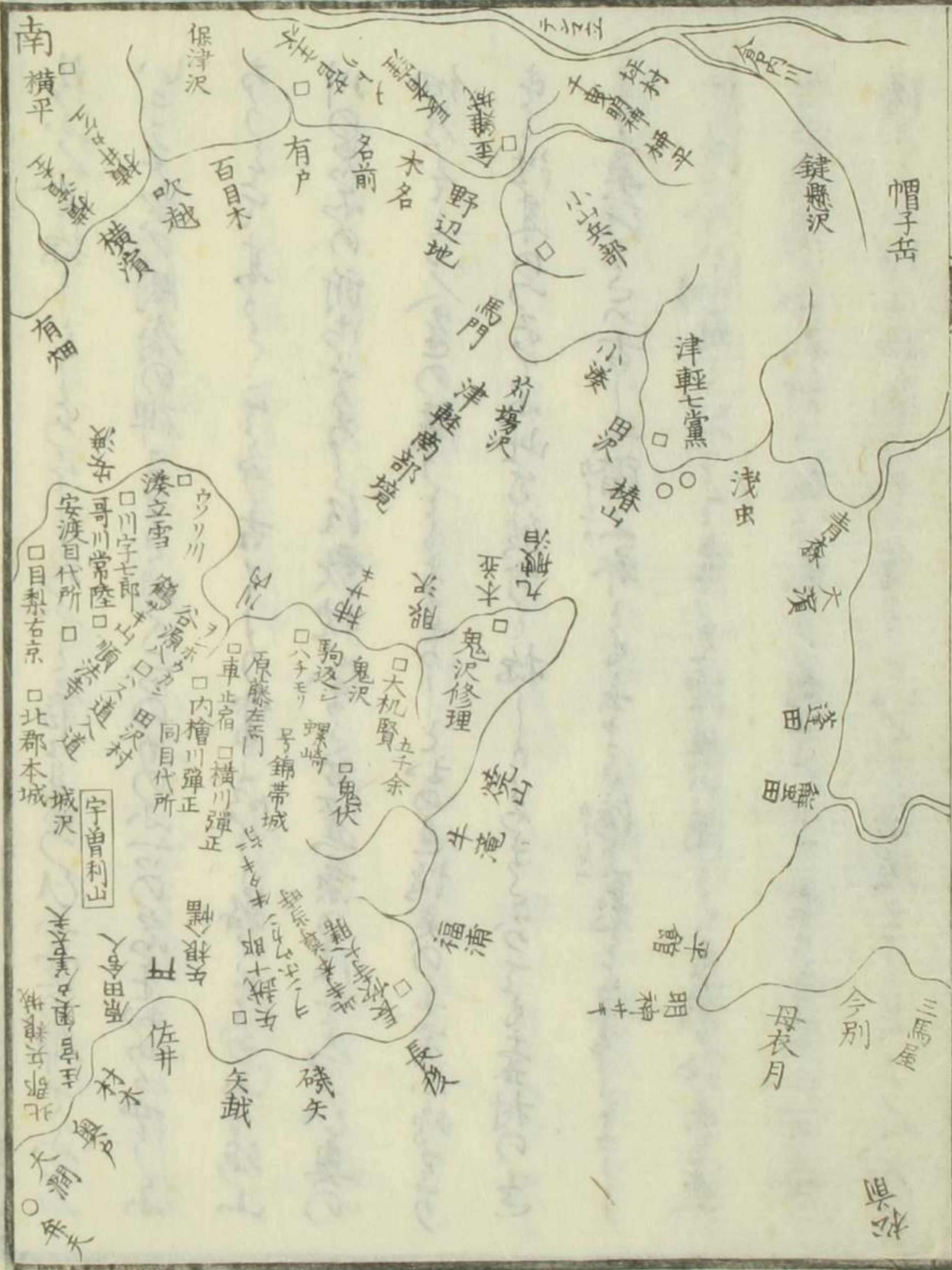
輪郭の外
志々村名々
閑易々んるふ
ほく
ま〜ま〜のこ



龍碑考

三

多氣志要載



龍碑考

多氣志要載

壺碑考
坪或作壺俗作壺者誤也○坪蒲明切音平地平處○
壺苦本切音悃官中街亦甬雅官中街郭璞曰街閣間
道也亦詩大雅其類維何室家又壺○此碑也在陸奧
州宮城郡多賀城址陸奧國官城郡風土記云坪碑在
鴻之地為故鎮守府門碑惠美朝獨立之見雲真人清
書也記異域本邦之行裡令旅人不為迷途也○此碑
作坪碑亦作壺碑共是可謂道路之碑之義也雖然稱
壺碑者不知始于何人也唯因風土記為坪碑者可為
是也而因為鎮府門碑之文則建于碑於城門外面大
道令人知四方之行裡者也

壺碑審定說
書名顯晦亦蓋繫于時運之泰否歟夫壺碑者所謂筆
法之妙書家之冠冕者也然而有知之者鮮矣予往慕
其書而不知其人也或云中將姬書也予既論以為非
也或疑唐人書衆議未決為源子巖始而唱之壺碑者
見雲真人書出日本紀殘篇予聞之而愕然想夫風土
記醍醐帝時始而成焉其書也久于今焉有之然子
巖信人也豈欺我哉且其博識多聞必有所觀焉念之
而不措一日於田氏家獲之顧其為書所謂存什一於什
佰就中觀壺碑之夏迹完然有免乎蠹予歎曰天也哉

嗚乎憶真人之妙迹當時振名朝野故朝猶令雇而淨書之今及澆季而人莫識之空餘此碑而已天不能言焉出風土記殘篇以告於人也名復顯于後世然微子巖則何以關於有聞可謂偉亦偉矣粵併收風土記文於此以永其傳云時正德六年丙申之春孟陬之日記之

壺碑考 東海平維章著

在宮城郡市川邑以南多賀城北去塩竈神祠西南已十余町名寄歌枕作壺石文或作碑風土記作坪碑壺宮中街郭璞曰街閣問道詩大雅其類維何室家之壺

又居也俗作壺碑非也壺洪孤切音胡酒器也坪蒲明切音平地平處

觀迹聞老志卷六

壺碑在干我東奧也久然累世無人識其神妙者空蕪没于古城草莽之中者幾千年水戸黃門君請其文字于吾大守綱村君令儒臣田邊氏雙鈞以遺焉未及石刻尤可惜矣元祿十二年與江定守及亡子義方經此地以義方術而打之去閱其文字筆勢高古字體寬閑殆非尋常書

如法以讀之此碑をまゝに小石を壺村の碑と附合せしと何時の世

心くわてん 後のころも山原のまのちふ自ら
 貝の売のつぎをちりぬ國ふ有とをちりる 古くは歌とも
 多く誓ふよみ彼こころ心をちりぬは古はまはく人と誓ふ
 何れぬとて誓うもあうそけ日本紀新羅王云即素
 旆而自服云 則重誓之曰非東日更出西且除阿利
 那禮河返以之逆流及河右岸為星辰而殊閑春秋之
 朝忍廢梳鞭之貢天神地祇共計焉云 又萬葉卷十一
 天地言名絶有汝吾相事止むこのたひふそ夫の末の松山
 を彼こころをちりぬとてたつ袖中抄もこころちりぬとて
 尔や何事とちりぬとてちりぬとて誓ふとて誓ふとて誓ふと
 とちりぬとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふと

山よとよとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふと
 ちりぬとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふと
 よりかろやの傷ひあぬわやとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふと
 まは山よとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふと
 をやまの閉伊初宮吉のつ松山村とて誓ふとて誓ふとて誓ふと
 子松澤山大松山大松下山とて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふと
 斗ちりぬとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふと
 思ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふと
 をも八幡村とて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふと
 ぬはも九戸初野の郷とて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふとて誓ふと

碑の臺村の碑なる終と云ふは近江守と云ふはツホヤ村と云ふは
 ツホヤと云ふは越前守と云ふは舟を漕ぐと云ふは村往古は
 舟を漕ぐと云ふは舟漕治を修むと云ふは愛小治
 せし者の村名と云ふは越前守の位と云ふは多賀郡の
 門碑と云ふは越前守二百二十里と云ふは天牟宿守の位
 なるは越前守と云ふは越前守の位と云ふは越前守
 なるは越前守と云ふは越前守の位と云ふは越前守
 ナイ路を地々ノウベチ奥内ハラコウナイ宿守のシユラフ
 コイヘシリヤノウシラユツキウフシラカウケイモ越前守
 小部 原屋 野牛 奥ノ本所 白旗

其文字を越前守と云ふは村名ヲホヤをツホヤと云ふは越前守の字
 なるは越前守と云ふは越前守の位と云ふは越前守
 なるは越前守と云ふは越前守の位と云ふは越前守
 なるは越前守と云ふは越前守の位と云ふは越前守

意蹟述開卷の四

考ふふ土人の云々... 大なる石の碑をいつの
 頃かたつらんを云々... 田畑を云々... や使う
 をひきよむと云々... 小なるの人物... かのいつか
 又然る... 女方を云々... 女を云々... 引を云々...
 よく思ふ... ひられ... せ... あり...

そを土中へ埋めては土を空をまき種といひ子引の種と云う
 と云う事といふ事をいふと昔に於て大なる石ありて其碑
 石のせんくおろく人の子引せふ物くつてもありしを
 壺と云女の引きりしよりいふとも傳へるはまことと云ふ
 今もあつる一はふふはたしといふやまをいふを種と
 云ふはふふ人の子引ぬはたし古に傳へたる風土記と云ふ
 記に倭もやまといふものも多しは後の世にころまき一向小粒
 なる事といふ事ふふ人の世にふふ種といふはふふ人の事ふふをうんと云ふ
 せんふふ二村夜をいひてふふくちふふりたはふふの種の事あり
 ありとてふふふふふ

水たふふふふふふと古くよりある事と云ふは大なる石の
 事と云ふ事といひしは石の子引といふ事といふ事古事記等葉集を
 見ればその事と云ふ事この碑の文字を刻くはふふの事といふ
 人のいふ事別つてふふの事と云ふ事大なる石ありてんはふふ
 ありし種といふ事と云ふ事子引の種と云ふ事一はふふの民世と
 の事といふ事といふ事おろくといふ事と昔に於ての事といひ
 といふ土人がかく名をきりし事といふ事と云ふ事といふ事
 傳へる事といふ事といふ事千引の種の事と云ふ事と云ふ事
 村も一里ありし事といふ事又壺の碑といふ事と云ふ事と云ふ
 付く事といふ事と云ふ事形の事といふ事と云ふ事と云ふ事

夫木抄を三十枚
乙子の之小書其の碑ありと云く何事か其はさしひ年ん 齊業

碑やほくく乃きふ方と云くを世の中を思ひまねぬ 法捕初五

らるる教令

いひいともふもの矣を陽のこもて通てとぬ其のいひを 歎昭

山家集

侍を契いおくいうくそたるゆると其の碑をその後うせ

拾遺集

いふはくの古書の碑りともむを證もかへて其まは 意圖

秋吉今集

そ大信正意圖をふくはくふふのいともそし

かきとまきしやきしはは返事し

みちのく乃いそ志のいふを志ぬと云くは其の碑右を初

く

いふゆいふ法と契のいふは志ぬ其のいふをまをさし

古本

日教をくかかり様を言ふは其の碑ありやうらん 懐園

新古今集

いふはあひのせとぬのいふくふをともむありぬと云く仲業

日教をくとも其書をく遠くふと小信をいふは志ぬ今也其城あり修の池

村あり多賀城の門碑を壺の碑と云ふありて其の政宗公を自ら志

ろくも其封内の史ありんとを世に傳ふらんといふ其の修り他封は有

名に危蹟の追ふ橋といひいふと云くいふより洞農も其の命

を當りて親近同志を編輯の修りて又を舞せしと云くを

いふまもく修りていふともありぬと其の碑ありとの壺村の首を

さしと云く其の碑ハ昔と云く其村の下方ふふの岡あり其は昔

の産神の跡ありと云くふふ其産神と云くを其何と云くや

壺石の古きものありて知る者もまれとも大なる石にてありて云傳へ
 是今の千引の神ありてハ坪村の上迄より右のち小と四所入る小なる
 松林の中より古きものは神と云ふその昔は下の方より古き神體と
 して彼の碑にて大古に村の下ありては遠く夜痛の流り神
 小祠ひらくは我々住る村より下より有る小なるを村の上の法隆の地
 へ曳極をへてこの告祭の何れ所ありては碑をこの地へ曳極志
 へ此人の傳へぬやうにして地小埋りてよ小祠を建てて是を祭るとや
 今も子曳の神と号するははあつての老字大勢集りて是を曳
 へる小祠より子曳のたゞし子人も有りて引る小祠ありてま
 ち好まざる宗字の云傳ゆるや大勢よく動きしを壺といふ女へ

壺石の古きものありて知る者もまれとも大なる石にてありて云傳へ
 是今の千引の神ありてハ坪村の上迄より右のち小と四所入る小なる
 松林の中より古きものは神と云ふその昔は下の方より古き神體と
 して彼の碑にて大古に村の下ありては遠く夜痛の流り神
 小祠ひらくは我々住る村より下より有る小なるを村の上の法隆の地
 へ曳極をへてこの告祭の何れ所ありては碑をこの地へ曳極志
 へ此人の傳へぬやうにして地小埋りてよ小祠を建てて是を祭るとや
 今も子曳の神と号するははあつての老字大勢集りて是を曳
 へる小祠より子曳のたゞし子人も有りて引る小祠ありてま
 ち好まざる宗字の云傳ゆるや大勢よく動きしを壺といふ女へ

壺の碑考 大尾

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

壺の碑考をみる 彦光

みらねくの多かるさうの
壺の碑考をみる
彦光のふりかへし
壺の碑考をみる
彦光のふりかへし

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

